

第73期

KISSEI REPORT

中間報告書 2017.4.1-2017.9.30

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
剰余金の配当の基準日	期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料)
同 郵 送 先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公 告 方 法	電子公告 電子公告掲載 URL http://www.kissei.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。
上 場 取 引 所	東京証券取引所 市場第1部

【お知らせ】

ご注意

- 株主様の住所変更、配当金の振込のご指定、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で支払いいたします。



ナナカマドの紅葉と奥穂高岳

世界の人びとの健康に
貢献できる
独創的な医薬品を
開発し提供する
創薬研究開発型企業を
目指す



ごあいさつ



代表取締役会長

神津陸雄

株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社第73期第2四半期（2017年4月1日から2017年9月30日まで）の事業の概要をご報告させていただきます。

当期は、計画期間を5年とする中期経営計画「Co-Creation」を4月よりスタートさせ、4つの基本方針のもとに、将来の安定成長のための事業基盤の強化を図っております。基本方針のひとつである「製品ポートフォリオの拡充」につきましては、開発中のプロジェクトを推進することで、この半年間で、剤形追加を含む2テーマが「承認申請中」、1テーマが「承認取得」の段階にステージアップいたしました。

引き続き、当社は経営環境の変化を乗り越え、創薬研究開発型企業として持続的成長を図るための取り組みに邁進していく所存です。

今後とも、株主の皆様の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結経営成績

当第2四半期連結累計期間における医薬品業界は、後発品使用促進策等の医療費抑制策の進展に加え、企業間での市場競争が激化するなど、引き続き厳しい経営環境のもとに推移しております。また、情報サービス業界、物品販売業界、建設業界におきましては、企業におけるIT投資及び設備投資意欲に改善傾向が見られ、個人消費も緩やかに持ち直しつつあるものの、景気を牽引するほどの力強さはなく、依然として厳しい競争環境下にありました。

医薬品事業の売上高は、322億9千7百万円（前年同期比5.9%増）となりました。長期収載医薬品などが減少いたしました。主力製品における積極的な医薬情報活動を推進いたしましたことなどにより、高リン血症治療薬「ピートル®チュアブル錠」、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬「ユリーフ®錠」及び「ユリーフ®OD錠」、糖尿病治療薬「グルベス®配合錠」などの売上が増加いたしましたことに加え、輸出売上や技術料売上が増加いたしましたことなどにより増収となりました。なお、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬シロドシン（一般名、日本製品名ユリーフ）の欧州・中東・アフリカなどにおける技術導入先でありますレコルダッチ社（イタリア）では、当連結累計期間におきましても引き続き許諾地域内において製品育成を進めております。

その他の事業の売上高は、42億9千万円（前年同期比19.5%減）となりました。情報サービス業で増収となりましたものの、物品販売業、建設請負業におきまして減収となりました。

利益面では、増収に加えて、その他の事業の減収を主要因とする売上原価率の低下により、売上総利益は増益となりましたものの、研究開発費を主に販売費及び一般管理費が増加いたしましたことにより営業利益は減益となりました。また、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、有価証券評価益や投資有価証券売却益を計上いたしましたことなどにより増益となりました。

研究開発の状況につきましては、本年9月にピートル®チュアブル錠の剤形追加（顆粒剤）の承認申請を行いましたほか、昨年10月に当社との共同開発先でありますEAファーマ株式会社より承認申請が行われました潰瘍性大腸炎治療薬AJG511（開発番号、一般名：ブデソニド）の製造販売承認を本年9月に取得いたしましたことから、薬価基準収載後に製品名「レクタブル®2mg注腸フォーム14回」として販売を開始するための準備を進めております。同じく本年9月には、過活動膀胱治療薬KRP-114V（開発番号、一般名：ビベグロン）について当社との共同開発先であります杏林製薬株式会社より承認申請が行われました。また、本年6月にビフォー・フレゼニウス・メディカル・ケア・リナール・ファーマ社（スイス）との間で、日本での独占的開発・販売権取得に関する契約を締結いたしました補体C5a受容体阻害剤CCX168（開発番号、一般名：アバコパン）は、第I相臨床試験を開始しております。なお、昨年7月に承認申請を行いましたグルベス®配合錠の剤形追加（口腔内崩壊錠）につきましては、追加試験の実施に伴い、本年6月に承認申請を一旦取り下げしております。



連結業績予想

医薬品業界におきましては、後発品使用促進策等の医療費抑制策の影響を受け、引き続き厳しい経営環境下にあります。また、その他の事業におきましても、景気回復への足取りが鈍く依然として厳しい業界環境が継続するものと予想されます。このような情勢の中で当グループは、グループ各社のシナジー創出によりグループ経営基盤を強化するとともに、これまでの研究開発などへの投資を成果へと結実させ、収益性の改善に取り組んでまいります。現時点での2018年3月期の連結業績見通しにつきましては、以下のとおりです。

連結業績見通し

(単位：百万円)

	2017年3月期実績	2018年3月期見通し	対前期増減額	増減率 (%)
① 売上高	71,706	75,000	3,294	4.6
② 営業利益	8,491	9,500	1,009	11.9
② 経常利益	9,638	11,100	1,462	15.2
② 親会社株主に帰属する当期純利益	7,726	8,600	874	11.3

① 売上高について

当初見通しより18億円増額の750億円（前年度比4.6%増収）に修正いたします。

第2四半期連結累計期間の業績並びに現況を加味した見直しを行いました結果、医薬品事業におきまして15億円、その他の事業におきまして3億円の増額といたしました。医薬品事業では、主として輸出売上及び技術料売上について売上を見直したことにあります。

② 利益について

第2四半期連結累計期間におきましては、売上原価率、販売費及び一般管理費が当初計画を上回りましたものの、医薬品事業及びその他の事業における売上高が当初計画を上回りましたことなどにより、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は当初見通しを上回りました。年度後半では、売上原価率は当初計画通りを見込んでおります一方、研究開発費を主に販売費及び一般管理費の増加を見込んでおります。

通期の売上高を増額修正いたしますことなどから、通期の利益見通しにつきましては、営業利益は当初見通しより5億円増額の95億円（前年度比11.9%増益）、経常利益は当初見通しより11億円増額の111億円（前年度比15.2%増益）、親会社株主に帰属する当期純利益は当初見通しより8億円増額の86億円（前年度比11.3%増益）の見通しであります。なお、年度後半の営業外損益並びに特別損益におきましては、特別なものは見込んでおりません。

研究開発の状況

経営ビジョンである「世界の人の健康に貢献できる独創的な医薬品を開発し提供する創薬研究開発型企業を目指す」の実現のため、研究開発におけるコア領域を定め、積極的に研究開発投資を行うことにより、新薬創出と開発の加速を図っております。また、グローバル市場への進出と拡大を目指し、創製品の技術導出による国際展開を推進しております。

(2017年11月現在)

● 自 社

開発段階	製品名／ 開発番号（一般名）	開発区分	予定適応症	主な作用等	備考
承認取得	レクタブル® AJG511 (ブデソニド)	導入品/EAファーマ共同開発	潰瘍性大腸炎	局所作用型ステロイド	注腸フォーム製剤
承認申請中	KRP-114V (ビベグロン)	導入品/杏林製薬共同開発	過活動膀胱	β3アドレナリン受容体 刺激作用	
	ビートル® (スクロオキシ水酸化鉄)	導入品/ビフォー・フレゼニ ウス・メディカル・ケア・リー ナル・ファーマ (スイス)	透析中の慢性腎臓病患者に おける高リン血症の改善	リン吸着作用	剤形追加 (顆粒剤)
第Ⅲ相	KPS-0373 (ロパチレリン)	導入品/塩野義製薬	脊髄小脳変性症	甲状腺刺激ホルモン放出 ホルモン (TRH) 作用	
	AJM300 (カロテグラストメチル)	導入品/EAファーマ共同開発	潰瘍性大腸炎	α4インテグリン阻害作用	
	JR-131	導入品/JCRファーマ共同開発	腎性貧血	赤血球増加作用	ダルベポエチンアルファ パイオ後続品
第Ⅱ相	KLH-2109	創製品	子宮内膜症	GnRHアンタゴニスト	
	MR13A9 (ジフェリケファリン)	導入品/丸石製薬共同開発	透析患者におけるそう痒症	κオピオイド受容体刺激作用	
第Ⅰ/Ⅱ相	YS110	導入品/ワイズ・イー・シー、 東京大学、日本医療研究開発 機構 (AMED)	悪性中皮腫	抗CD26ヒトモノクローナル 抗体	
第Ⅰ相	KDT-3594	創製品	パーキンソン病	ドパミン受容体刺激作用	
	CCX168 (アバコパン)	導入品/ビフォー・フレゼニ ウス・メディカル・ケア・リー ナル・ファーマ (スイス)	抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎	補体C5a受容体阻害作用	

(2017年11月現在)

● 導 出

開発段階	開発番号/一般名	提携企業	権利地域	予定適応症	主な作用等
承認申請中	ミチグリニド (mitiglinide)	エーザイ (日本)	アセアン*1	2型糖尿病	速効・短時間型 インスリン分泌促進作用
	シロドシン (silodosin)		アセアン、インド、ス リランカ*2	前立腺肥大症に伴う排尿障害	α1Aアドレナリン受容体 拮抗作用
第Ⅲ相	KLH-2109	オブシーバ (スイス)	日本、一部のアジアを 除く全世界	子宮筋腫	GnRHアンタゴニスト
第Ⅱ相	ベドラドリン (bedoradrine)	メディシノバ (アメリカ)	日本を除く全世界	喘息の急性発作、切迫早産	β2アドレナリン受容体刺激作用
	KLH-2109	オブシーバ (スイス)	日本、一部のアジアを 除く全世界	子宮内膜症	GnRHアンタゴニスト
第Ⅰ相	ベドラドリン (bedoradrine)	メディシノバ (アメリカ)	日本を除く全世界	COPD	β2アドレナリン受容体刺激作用

*1：発売：タイ、フィリピン、カンボジア、ミャンマー、申請中：2カ国

*2：発売：タイ、インド、インドネシア、フィリピン、カンボジア、承認：ミャンマー、申請中：アセアン3カ国

連結財務諸表

●四半期連結貸借対照表

				(単位：百万円)			
期別	前第2四半期	当第2四半期	前期	期別	前第2四半期	当第2四半期	前期
科目	(2016年9月30日現在)	(2017年9月30日現在)	(2017年3月31日現在)	科目	(2016年9月30日現在)	(2017年9月30日現在)	(2017年3月31日現在)
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	97,642	101,285	97,218	流動負債	16,702	16,960	15,656
固定資産	89,301	96,865	89,582	固定負債	13,719	14,956	13,361
有形固定資産	26,453	26,176	26,308	負債合計	30,422	31,917	29,017
無形固定資産	980	1,824	1,845	(純資産の部)			
投資その他の資産	61,866	68,864	61,428	株主資本	136,458	140,668	137,499
資産合計	186,943	198,151	186,801	その他の包括利益累計額	19,777	25,214	19,954
				非支配株主持分	285	351	329
				純資産合計	156,521	166,234	157,783
				負債純資産合計	186,943	198,151	186,801

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point

・資産の状況

総資産は1,981億5千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ113億4千9百万円増加いたしました。流動資産はたな卸資産などが減少いたしました。現金及び預金、有価証券が増加いたしましたことにより、40億6千6百万円増加し1,012億8千5百万円となりました。固定資産は投資有価証券が時価評価により増加いたしましたことにより、72億8千3百万円増加し968億6千5百万円となりました。

Point

・負債及び純資産の状況

負債は319億1千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ28億9千9百万円増加いたしました。流動負債は未払法人税等並びに「その他」に含まれる未払金が増加いたしましたことにより、13億4百万円増加し169億6千万円となりました。固定負債は繰延税金負債が増加いたしましたことにより、前連結会計年度末に比べ15億9千4百万円増加し149億5千6百万円となりました。純資産は1,662億3千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ84億5千万円増加いたしました。主な要因は、その他有価証券評価差額金、利益剰余金が増加いたしましたことによりです。

●四半期連結損益計算書

				(単位：百万円)			
期別	前第2四半期	当第2四半期	前期	期別	前第2四半期	当第2四半期	前期
科目	(2016年4月1日から2016年9月30日まで)	(2017年4月1日から2017年9月30日まで)	(2016年4月1日から2017年3月31日まで)	科目	(2016年4月1日から2016年9月30日まで)	(2017年4月1日から2017年9月30日まで)	(2016年4月1日から2017年3月31日まで)
売上高	35,834	36,587	71,706	売上原価	12,589	12,327	25,075
売上総利益	23,245	24,259	46,631	販売費及び一般管理費	18,771	20,141	38,140
営業利益	4,473	4,118	8,491	営業外収益	545	1,149	1,271
営業外収益	545	1,149	1,271	営業外費用	159	92	124
営業外費用	159	92	124	経常利益	4,859	5,174	9,638
経常利益	4,859	5,174	9,638	特別利益	359	309	670
特別利益	359	309	670	特別損失	71	14	192
特別損失	71	14	192	税金等調整前四半期(当期)純利益	5,147	5,470	10,116
税金等調整前四半期(当期)純利益	5,147	5,470	10,116	法人税、住民税及び事業税	1,397	1,746	2,291
法人税、住民税及び事業税	1,397	1,746	2,291	法人税等調整額	△156	△576	59
法人税等調整額	△156	△576	59	四半期(当期)純利益	3,907	4,299	7,765
四半期(当期)純利益	3,907	4,299	7,765	非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益	17	19	39
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益	17	19	39	親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	3,890	4,280	7,726
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	3,890	4,280	7,726				

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●四半期連結キャッシュ・フロー計算書

				(単位：百万円)			
期別	前第2四半期	当第2四半期	前期	期別	前第2四半期	当第2四半期	前期
科目	(2016年4月1日から2016年9月30日まで)	(2017年4月1日から2017年9月30日まで)	(2016年4月1日から2017年3月31日まで)	科目	(2016年4月1日から2016年9月30日まで)	(2017年4月1日から2017年9月30日まで)	(2016年4月1日から2017年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,580	2,895	6,441	投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,412	△3,248	△4,671
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,412	△3,248	△4,671	財務活動によるキャッシュ・フロー	△978	△1,056	△3,766
財務活動によるキャッシュ・フロー	△978	△1,056	△3,766	現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	0	△0
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	0	△0	現金及び現金同等物の増減額	△814	△1,409	△1,996
現金及び現金同等物の増減額	△814	△1,409	△1,996	現金及び現金同等物の期首残高	50,094	48,098	50,094
現金及び現金同等物の期首残高	50,094	48,098	50,094	現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	49,280	46,689	48,098
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	49,280	46,689	48,098				

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point

・キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)
営業活動の結果得られた資金は、その他流動負債の増加などの資金増加要因がありましたが、売上債権の増加などが資金減少要因となり、前年同期に比べ6億8千5百万円減の28億9千5百万円となりました。(投資活動によるキャッシュ・フロー)
投資活動の結果使用した資金は、有価証券の取得による支出の増加などの資金減少要因がありましたが、投資有価証券の取得による支出の減少などが資金増加要因となり、前年同期に比べ1億6千4百万円支出減の32億4千8百万円の支出となりました。(財務活動によるキャッシュ・フロー)
財務活動の結果使用した資金は、前年同期に比べ7千8百万円支出増の10億5千6百万円の支出となりました。

主な医療用医薬品

泌尿器科用薬剤	
ユリーフ	排尿障害改善薬
腎・透析科用薬剤	
ピートルチュアブル錠	高リン血症治療薬
エポエチンアルファBS注JCR	腎性貧血治療薬
フラグミン静注	血液凝固阻止剤
フルスタン錠	活性型ビタミンD ₃ 製剤
代謝内分泌科用薬剤	
グルファスト	糖尿病治療薬
グルベス配合錠	糖尿病治療薬
ベザトールSR錠	高脂血症治療薬
産婦人科用薬剤	
ウテメリン	切迫流・早産治療薬
ゾラデックス1.8mgデポ	子宮内膜症治療薬
眼科用薬剤	
リザベン点眼液	アレルギー性結膜炎治療薬
リズモンTG点眼液	緑内障・高眼圧症治療薬
その他の薬剤	
サラジェン	口腔乾燥症状改善薬
リザベン	アレルギー性疾患治療薬
キサンボン注	脳循環改善薬
ガスコン	消化管内ガス駆除薬
ドメナン錠	気管支喘息治療薬

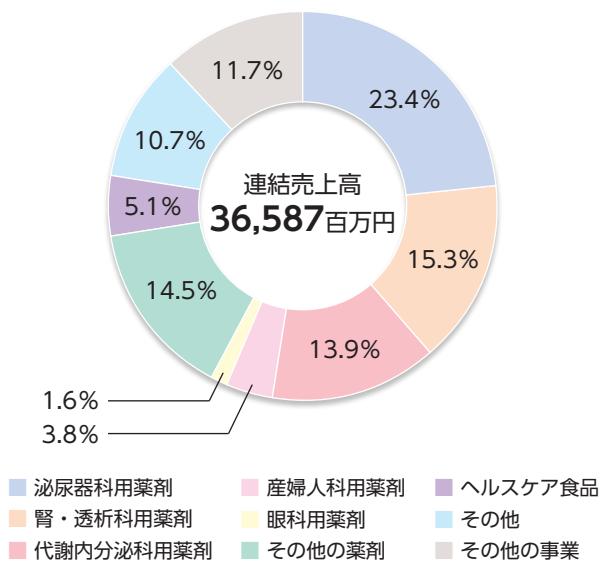
主なヘルスケア食品

介護・高齢者向け食品

新スルーキング i・・・お茶やジュース等の飲み物や食品の種類及び温度に関係なく、安定したとろみがつけられるとろみ調整食品です。無色でにおいも味もなく、食品の風味を損ないません。

スルーパートナー・・・液状食品やミキサー食を見た目においしそうで食べやすいゼリー食にできる介護食調整用食品です。いろいろな食品を風味や色を変えずに固めることができ、冷たいままでも温めてもおいしく召し上がれます。

やわらかカップ・・・テリーヌ風においしくとろけるようなやわらかさに仕上げました。調理済みのため加熱の必要はなく、開けてそのまま召し上がれます。いとより鯛、かに風味、ほたて風味、いわし、うなぎ、ポークしょうが焼があり、たんぱく質7gのぶり大根風味、さばの味噌煮もあります。また栄養強化タイプとして、カレー風味、ビーフシチュー風味、エビチリ風味の3種があります。



■ 泌尿器科用薬剤 ■ 産婦人科用薬剤 ■ ヘルスケア食品
 ■ 腎・透析科用薬剤 ■ 眼科用薬剤 ■ その他
 ■ 代謝内分泌科用薬剤 ■ その他の薬剤 ■ その他の事業

エネルギー補給食品

カップアガロリー・・・1食で150kcalのエネルギー、100mgのカルシウムが補給できるゼリーです。味の種類は、オレンジ、ウメ、カリン、マスカット、リンゴ、モモ、ストロベリー、ブルーベリーがあります。

マクトンシリーズ・・・効率的に体内に吸収されエネルギーとなる中鎖脂肪酸を用いたエネルギー補給食品です。手軽に召しあがるビスキーなどのほか、様々な料理にお使いいただけるオイル、パウダーもあります。

たんぱく質調整食品

ゆめごはん・・・たんぱく質、リン、カリウムを抑えたおいしいパック入りごはんです。温めるだけで手軽に召し上がれます。

「レクタブル® 2 mg注腸フォーム14回」の製造販売承認取得



本年9月に、潰瘍性大腸炎治療剤「レクタブル® 2 mg注腸フォーム14回」について、共同開発先であるEAファーマ株式会社から製造販売承認を取得しました。

本剤は、EAファーマがDr. Falk Pharma社（ドイツ）より導入し、当社とEAファーマが国内で共同開発を進めてきました。

潰瘍性大腸炎は、大腸の粘膜に潰瘍などができる炎症性腸疾患のひとつであり、腹痛や下痢、下血などにより著しいQOL（生活の質）の低下を余儀なくされる疾患です。国内に17万人以上の患者さんがおられると推定され、厚生労働大臣により「指定難病」に指定されています。

本剤は、ブデソニドを有効成分とする日本初の泡状の注腸製剤（注腸フォーム製剤）です。泡状であるため、直腸及びS状結腸に到達した薬剤が局所に留まり、投与後に薬剤が漏れにくいという特長があります。また、本剤は局所作用型ステロイド薬であるため、ステロイドに起因する全身性の副作用の低減が期待できます。

当社とEAファーマは、薬価基準収載後、日本国内において同一製品名にてそれぞれ販売を行います。本剤を提供することで、潰瘍性大腸炎患者さんのより簡便で安全な局所治療薬のニーズにお応えし、患者さんのQOLの向上に一層貢献してまいります。

「ゆめレトルト」全品リニューアル及び3製品追加新発売

当社は、腎臓病などで低たんぱく食事療法を行っている方向けに、たんぱく質調整食品の開発・販売を行っております。

本年9月にたんぱく質調整食品「ゆめレトルト」を全品リニューアルするとともに、新しく「たんぱくこだわりカレー」、「麻婆豆腐」、「切干大根煮」の3製品を追加した全21品を新発売しました。

「ゆめレトルト」は、たんぱく質を調整し、食塩、リンを抑えたレトルト食品で、温めるだけで手軽に召し上がれます。今回のリニューアルでは、当社従来品から、さらに味や香りを改善するためレシピ・原材料を全面的に見直し、だしや香辛料を効かせた風味豊かな味わいに仕上げました。また、パッケージも成分表示を大きくするなど、使いやすさを重視したデザインに一新しました。新しくシリーズ入りした3製品についても、同様に、たんぱく質や塩分を抑えるだけでなく、香辛料や調味料にもこだわりました。特に「たんぱくこだわりカレー」は「ゆめレトルト」のカレー3品の中でも最少のたんぱく質1.5g（1食当たり）に仕上げました。

今回のリニューアルにより、患者さんをはじめとするお客様の食生活の幅を広げ、低たんぱく食事療法の継続に役立てていただけるものと期待しています。



お問い合わせ先

ヘルスケア事業部 お客様相談センター
 フリーダイヤル：0120-113-513（土・日・祝日を除く9：00～17：00）

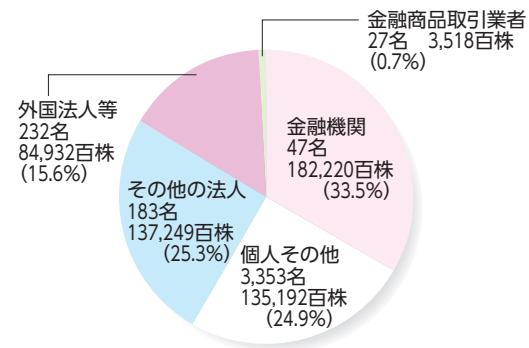
株式の状況 (2017年9月30日現在)

発行可能株式総数 227,000,000株
 発行済株式の総数 54,311,185株
 株主数 3,842名 (前期末比増減16名増)
 大株主

株主名	持株数	持株比率
第一生命保険株式会社	32,000百株	6.6%
有限会社カンザワ	31,782	6.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	26,130	5.4
株式会社八十二銀行	24,132	5.0
株式会社みずほ銀行	18,334	3.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	16,383	3.4
神澤 陸 雄	15,384	3.2
キッセイグループ従業員持株会	13,134	2.7
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	12,573	2.6
鍋林株式会社	12,223	2.5

(注) 1. 当社は自己株式59,943百株を保有しておりますが、上記大株主には記載しておりません。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

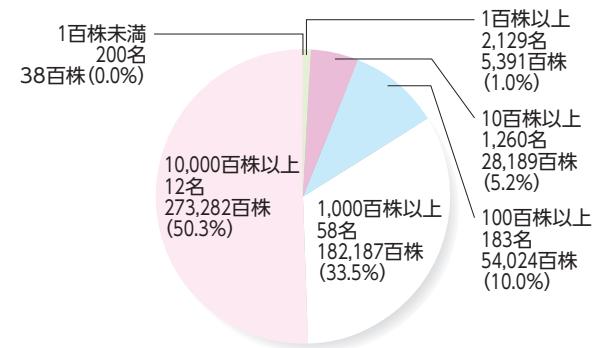
所有者別分布



株価チャート



所有株数別分布



会社の概要 (2017年9月30日現在)

社名 **キッセイ薬品工業株式会社**
 英文社名 KISSEI PHARMACEUTICAL CO., LTD.
 設立 1946年(昭和21年)8月9日
 資本金 24,356,653,478円
 主要な事業内容 医療用医薬品の研究・開発・製造・販売
 従業員数 1,539名

事業所 本 社
 長野県松本市芳野19番48号
 電話 (0263) 25-9081 〒399-8710
 東京本社
 東京都中央区日本橋室町一丁目8番9号
 電話 (03) 3279-2761 〒103-0022
 東京本社 (小石川)
 東京都文京区小石川三丁目1番3号
 支 店
 札幌支店、仙台支店、関越支店(さいたま市)、
 東京支店、横浜支店、松本支店、
 名古屋支店、京都支店、大阪支店、
 高松支店、広島支店、福岡支店
 (注) 支店の下に46営業所を設置しております。

工 場
 松本工場、塩尻工場
 研 究 所
 中央研究所・第二研究所・製剤研究所
 (長野県安曇野市)
 上越化学研究所(新潟県上越市)
 ヘルスケア事業センター
 (長野県塩尻市)

役員

代表取締役会長	神澤 陸雄	取締役	草間 寛
代表取締役社長	両角 正樹	取締役	松下 英一
取締役副社長	佐藤 公衛	取締役	菊池 伸次
常務取締役	伊佐治 正幸	社外取締役	清水 重孝
常務取締役	福島 敬二	社外取締役	野村 稔
常務取締役	降旗 喜男	常勤監査役	米窪 真人
常務取締役	竹花 泰雄	監査役	金井 英敏
取締役	宗 健司	社外監査役	上野 紘志
取締役	高山 哲	社外監査役	中川 寛道

Information



ホームページのご案内

当社のホームページでは、タイムリーな情報を提供しています。是非アクセスしてください。

アドレスはこちら↓
<http://www.kissei.co.jp/>

Annual Report 2017

ホームページ (English Page) にも掲載しています。



CSR報告書 2017

環境やCSRの取り組みを「CSR報告書」としてまとめています。

資料請求のご連絡先：広報部 TEL：0263-25-9523
 (土・日・祝日、当社休日を除く月～金 8：40～17：20)